ONKYO®

INTEC
COMPONENT WORLD

FMステレオ／
AMチューナーアンプ

R-805TX
取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

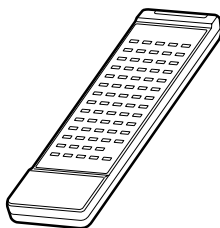
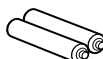
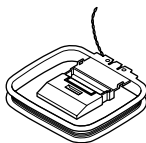
特長

- ■ ハイクォリティ単品設計
- ■ プロセッサー端子装備
- ■ 5系統入力装備
- ■ 超低域を自然に増強するアコースティック・プレゼンス回路
- ■ プリセット30局メモリー
- ■ オートプリセットメモリー機能（FMのみ）
- ■ ウイークリープログラムタイマー
- ■ システムコントロールリモコン装備

付属品

■ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。

（　）内の数字は数量を表わしています。

●リモコン（1）
（RC-456S）

●単3形乾電池(2)

●AM室内アンテナ（1）

●FM室内アンテナ

●取扱説明書（本書 1）

●保証書（1）

♪音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

● 本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気を付けてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠警告

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本機の通風孔から金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

● 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

● 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

● 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
- アンテナ工事には経験と技術が必要ですので、販売店にご相談ください。
- 屋外アンテナは送電線から離れた場所に設置してください。
  アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

各部の名称

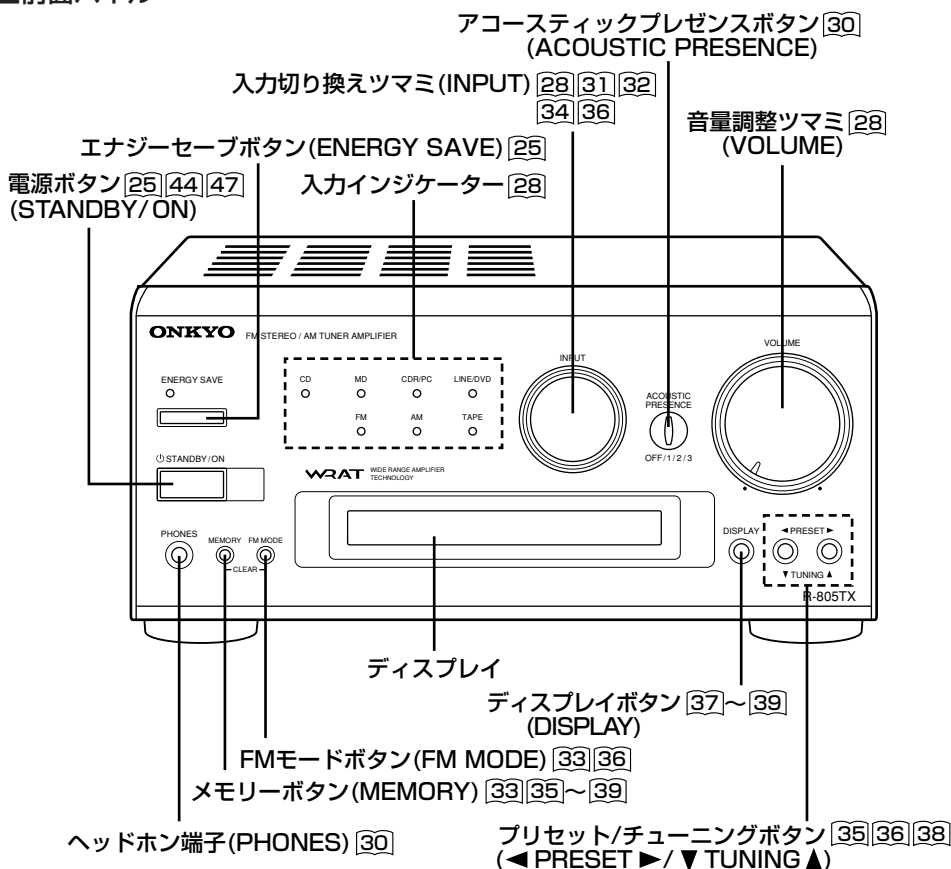
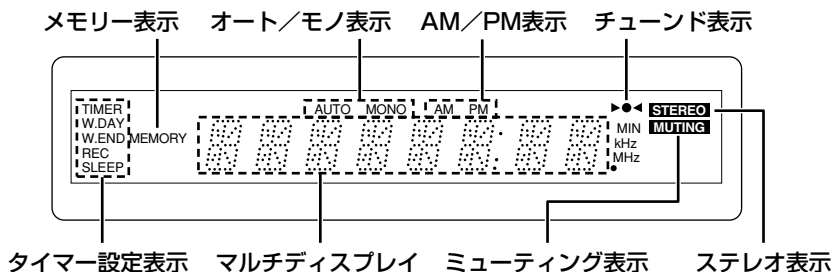
📖表示は詳しい説明のあるページです。

■前面パネル

■ディスプレイ

メモリー表示　オート／モノ表示　AM／PM表示　チューンド表示

TIMER
W.DAY
W.END
REC
SLEEP
MEMORY
AUTO　MONO　AM　PM
STEREO
MUTING
MIN
kHz
MHz

タイマー設定表示　マルチディスプレイ　ミューティング表示　ステレオ表示

■リモコン

電源ボタン(STANDBY/ON) 25 44 47

電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

チューナー操作ボタン 32 34 36

PRESET◀/▶：プリセットされた放送局を選びます。

FM：FM放送を選びます。

AM：AM放送を選びます。

音質切り換えボタン(TONE) 29

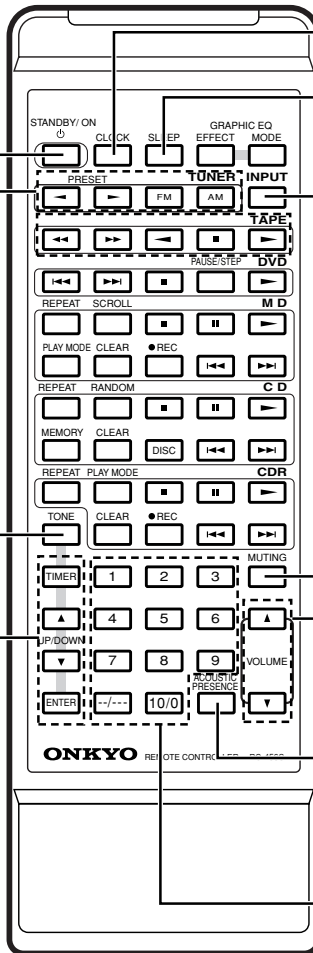
高音/低音(BAS/TRE)を切り換えます。

モード切り換えボタン 26 40～48

TIMER：押すたびに、次の6種類の設定モードが切り換わります。

- **WEEKDAY**：設定した曜日のタイマー演奏の設定
- **WEEKEND**：設定した曜日のタイマー演奏の設定
- **REC**：タイマー録音の設定
- **DAYSET**：WEEKDAYとWEEKENDの曜日の変更
- **ADJUST**：現在時刻と曜日の設定
- **24H/12H**：24時間表示と12時間表示を切り換えます。ENTERボタンを押し、▲ボタンまたは▼ボタンでどちらかの表示を選択します。

UP/DOWN▲/▼：TIMERまたはTONEボタンで設定した項目の設定内容を選びます。選択後、ENTERボタンを押します。

ENTER：TIMERボタン/TONEボタン/▲または▼ボタンで選択した（ディスプレイに表示させた）内容を確定します。

クロックボタン（CLOCK） 51

現在の時刻を表示します。

スリープボタン（SLEEP） 49

スリープタイムを設定します。

入力切り換えボタン(INPUT) 28 31 32 34 36

聞くソースを選びます。

ミューティングボタン 29 (MUTING)

音量を小さくします。

音量調整ボタン 28 (VOLUME▲/▼)

音量を調整します。本機の音量調整ツマミと同じ働きをします。

アコースティック 30 プレゼンスボタン (ACOUSTIC PRESENCE)

アコースティックプレゼンスを切り換えます。

数字ボタン 27 36 41

時刻設定やプリセット局の選局に使います。

各部の名称

■リモコン

RI接続すると下記のボタンが使えます。

テープデッキ操作ボタン

◀◀ ：テープを巻戻しします。

▶▶ ：テープを早送りします。

◀ ：B(裏)面を再生します。

■ ：再生・録音や早送り・巻戻しを止めます。

▶ ：A(表)面を再生します。

DVDプレーヤー操作ボタン

⏮ ：現在のチャプター／トラックの先頭から再生します。

⏭ ：1つ先のチャプター／トラックの先頭から再生します。

■ ：再生を止めます。

PAUSE/STEP ：再生の一時停止／コマ送りをします。

▶ ：再生を始めます。

CDプレーヤー操作ボタン

REPEAT ：演奏をくり返します。

RANDOM ：曲をランダムに演奏します。

■ ：演奏を止めます。

II ：演奏を一時停止します。

▶ ：演奏を始めます。

⏭ ：次の曲の頭出しをします。

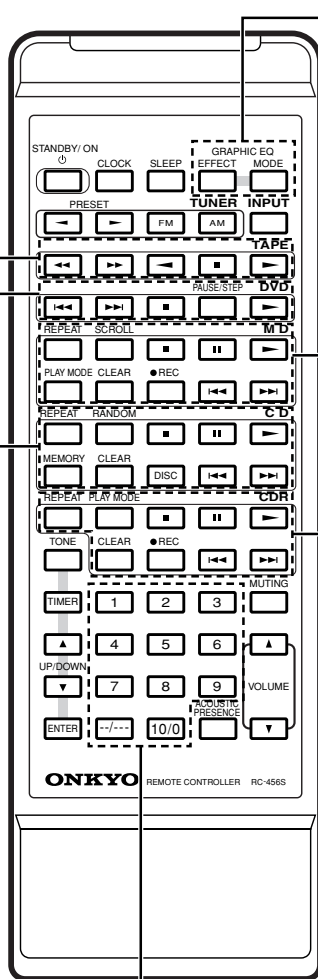
⏮ ：演奏中の曲または、前の曲の頭出しをします。

DISC ：CDチェンジャーに使える機能で、演奏するディスクを選びます。

CLEAR ：記憶した曲を取り消します。

MEMORY ：演奏する曲の順序を記憶します。

数字ボタン

CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーの選曲に使います。

グラフィックイコライザー（グライコ）操作ボタン

EFFECT ：グライコ効果をオン／オフします。

MODE ：グライコモードを切り換えます。

MDレコーダー操作ボタン

REPEAT ：くり返し再生します。

SCROLL ：表示が長いとき、右から左へ移動表示させせます。

■ ：再生・録音を止めます。

II ：再生・録音を一時停止します。

▶ ：再生・録音（録音一時停止から）を始めます。

⏭ ：次の曲の頭出しをします。

⏮ ：再生中の曲または前の曲の頭出しをします。

●REC ：録音するときに録音待機状態にします。

CLEAR ：記憶した曲を取り消します。

PLAY MODE ：再生モードを切り換えます。

CDレコーダー操作ボタン

REPEAT ：再生をくり返します。

PLAY MODE ：再生モードを切り換えます。

■ ：再生・録音を止めます。

II ：再生・録音を一時停止します。

▶ ：再生・録音（録音一時停止から）を始めます。

⏭ ：次の曲の頭出しをします。

⏮ ：再生中の曲または、前の曲の頭出しをします。

●REC ：録音待機状態にします。

CLEAR ：記憶した曲を取り消します。

接続

INTEC205シリーズのC-705TX(CDプレーヤー)、MD-105TX(MDレコーダー)、K-505TX(カセットテープデッキ)、CDR-205TX(CDレコーダー)と接続する場合

システム接続のしかた
(INTEC205 シリーズの接続)

本取扱説明書14〜17ページをご覧ください。

INTEC205シリーズの組み合わせでご使用になると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めますと、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を入、切しますと接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ご注意 本機と各機器の接続が正しくないとオートパワーオン機能は動作しません。オートパワーオン機能を働かせる場合は、本機と各機器が正しく接続されていることを確認してください。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

詳しくは本取扱説明書11〜12ページをご覧ください。

タイマー操作
本機でタイマー時間を設定し、タイマー操作や、タイマー録音ができます。

詳しくは本取扱説明書の40〜50ページをご覧ください。

CDダビング
CDプレーヤーとMDレコーダーまたはカセットテープデッキの組み合わせで便利なCDダビングが行えます。

トラック指定CDダビング
演奏トラックを指定してCDからMDへの録音をワンタッチで行えます。

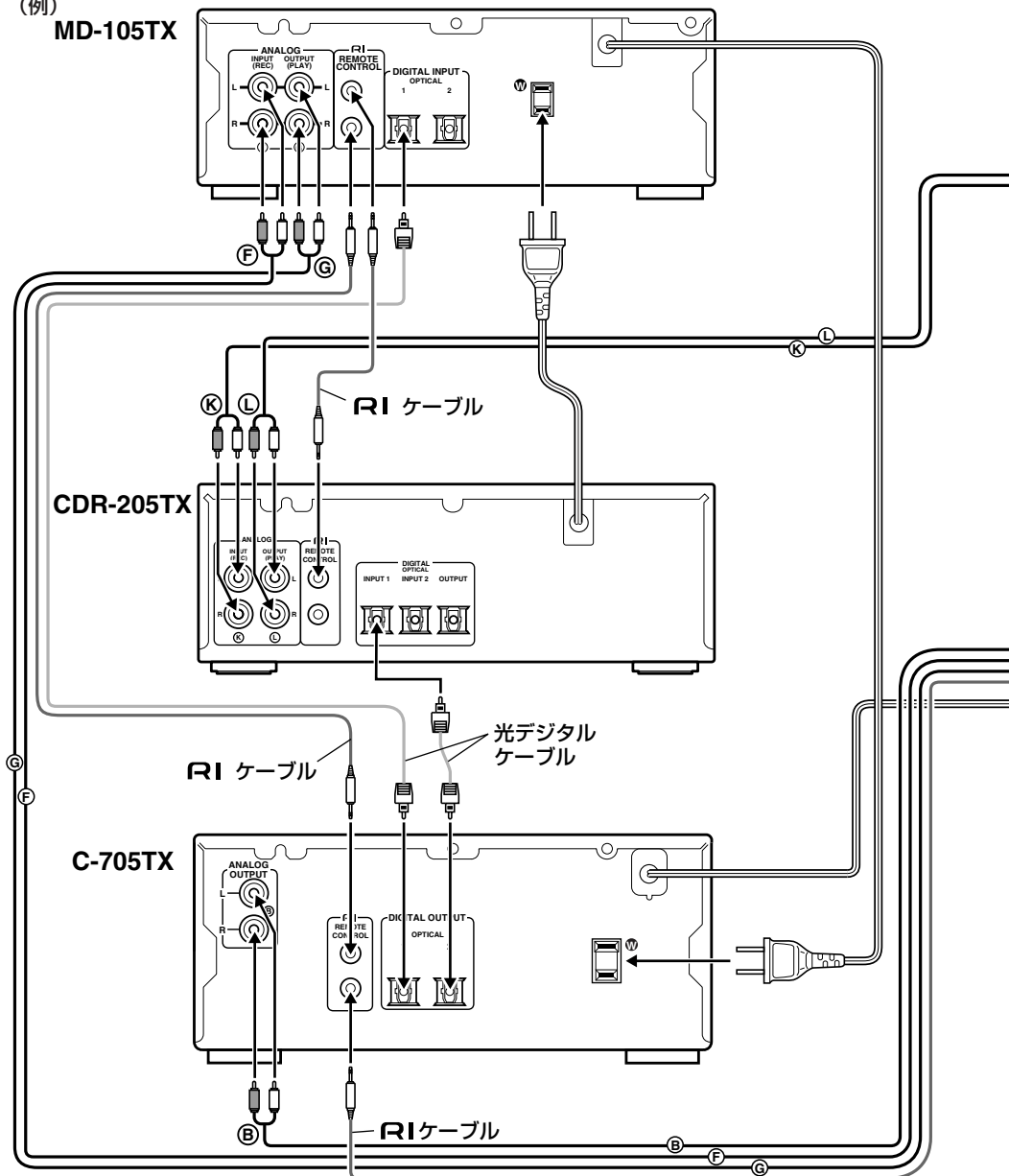
CDシンクロ録音
MDレコーダーまたはCDレコーダー、カセットテープデッキを録音待機状態にしておけばCDプレーヤーのプレイ操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくはMD-105TX、C-705TX、CDR-205TX、K-505TXの取扱説明書をご覧ください。

- 接続がまちがっていると各機能は働きません。14〜17ページを参照しながら正しく、確実に接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合があります。電源コード接続時に他の機器(コンピューターなど)への影響を確認してください。支障が出ると予想される場合は、他のブレーカーから配線されたコンセントを使用してください。

■本機のタイマー機能を使用する場合のシステム接続のしかた

INTEC205シリーズのCDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーと接続する場合

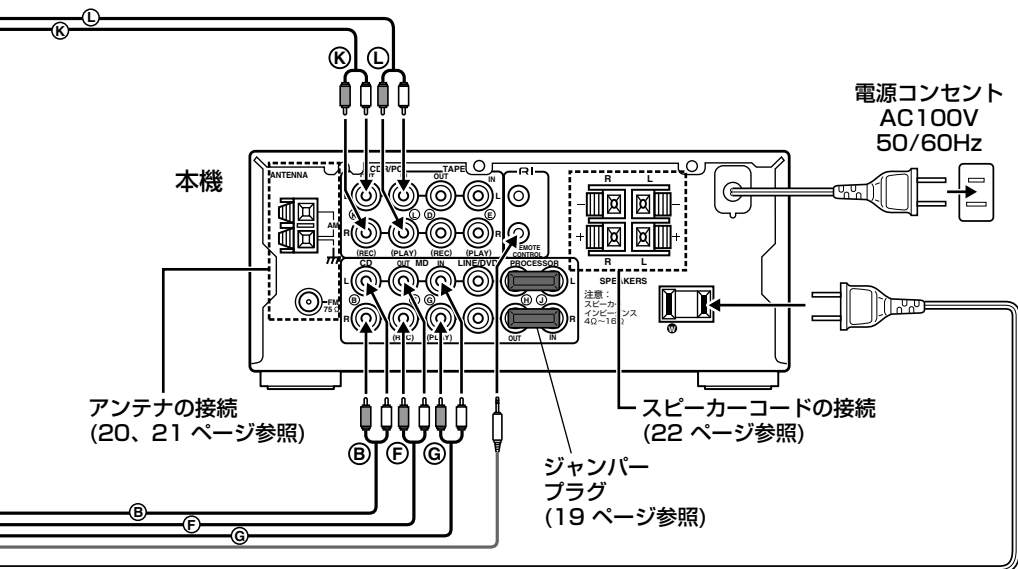
（例）

● システム接続で本機がスタンバイ状態（ディスプレイのみ点灯時）の場合は、本機に接続されている機器にわずかですが待機用の電力が供給されています。節電したい場合など、接続されている機器に待機用電力を供給したくない時は、本機のエナジーセーブボタン（ENERGY SAVE）を使用して電源を切ってください。（エナジーセーブボタンの使いかたについては、25ページをご覧ください。）

本機

電源コンセント
AC100V
50/60Hz

アンテナの接続
(20、21 ページ参照)

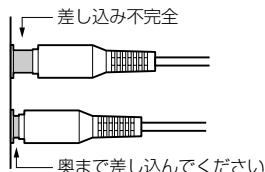
スピーカーコードの接続
(22 ページ参照)

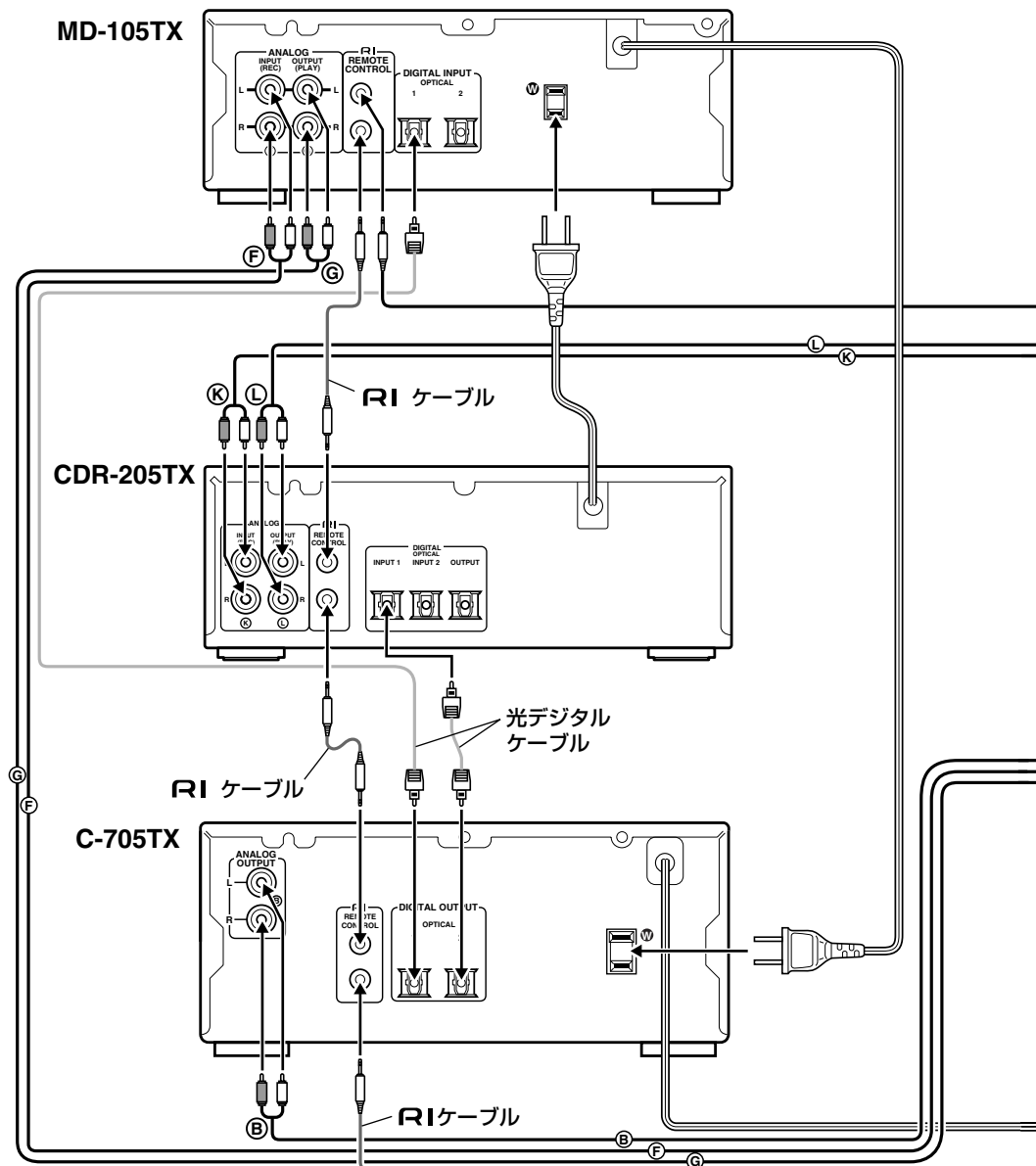
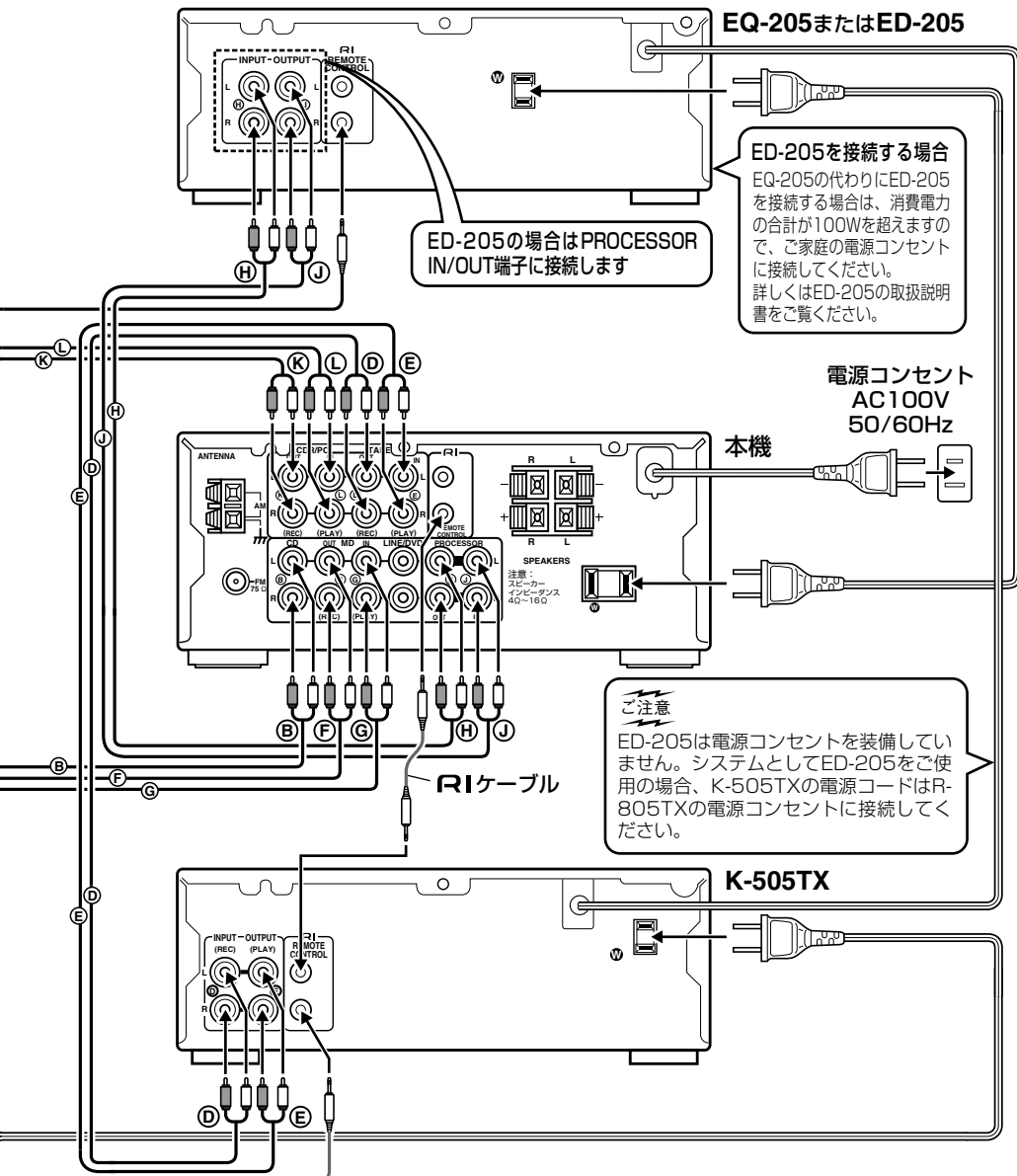
ジャンパー
プラグ
(19 ページ参照)

ご注意

● **すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。**
● 各機器に付属のオーディオ用ピンコード（赤、白プラグ付きピンコード）を使用し、赤いプラグは（R）側に、白いプラグは（L）側に接続します。また、各機器の端子に印刷されている記号（Ⓑと Ⓑ、Ⓓと Ⓓなど）を合わせて接続します。

差し込み不完全

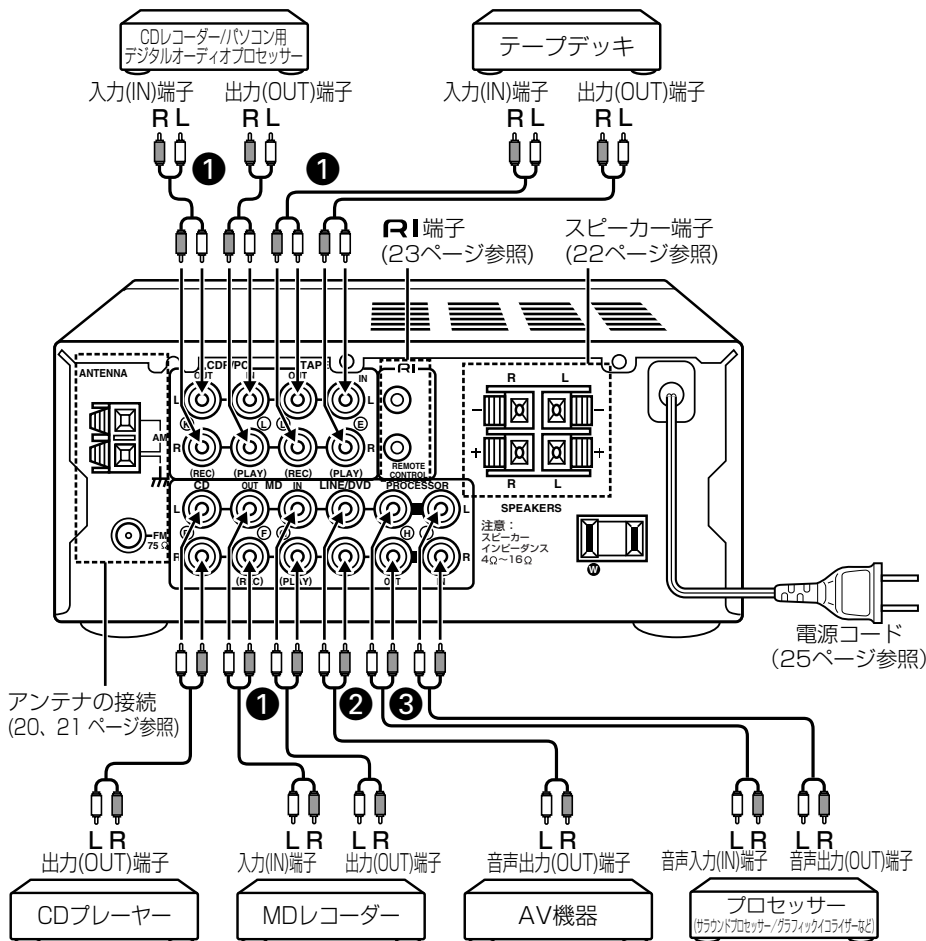
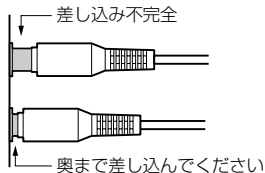
奥まで差し込んでください

● コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
● オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
● オーディオ用ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねますと、音質低下の原因となります。
● 各機器に付属のRIケーブルで、RIリモコン端子の接続を確実に行なってください。接続がされていませんとシステムとしての操作をすることができません。
● CDプレーヤー、MDレコーダーおよびCDレコーダーは、熱に弱い部品が使用されていますので、本機の上に置かないようにしてください。

INTEC205シリーズのK-505TX(カセットデッキ)、EQ-205(グラフィックイコライザー)やED-205(AVサラウンドプロセッサー)を使用する場合の接続のしかた
(例)

ご注意

本機のプロセッサー端子（PROCESSOR）には、ジャンパープラグが差し込んであります。
EQ-205（グラフィックイコライザー）やED-205（AVサラウンドプロセッサー）などを接続する場合は、ジャンパープラグをはずしてからピンコードを接続してください。（19ページ参照）

■一般的な接続のしかた

- **すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。**
- 接続は、オーディオ用ピンコード（赤、白プラグ付きピンコード）を使用し、赤いプラグは（R）側に、白いプラグは（L）側に接続します。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねると、音質低下の原因となります。

CDレコーダー/パソコン用デジタルオーディオプロセッサー
入力(IN)端子 出力(OUT)端子
テープデッキ
入力(IN)端子 出力(OUT)端子
RI端子（23ページ参照）
スピーカー端子（22ページ参照）
電源コード（25ページ参照）
アンテナの接続（20、21 ページ参照）
CDプレーヤー 出力(OUT)端子
MDレコーダー 入力(IN)端子 出力(OUT)端子
AV機器 音声出力(OUT)端子
プロセッサー（サラウンドプロセッサー/グラフィックイコライザーなど） 音声入力(IN)端子 音声出力(OUT)端子

❶CDR/PC端子（CDR/PC）、MD端子（MD）、テープ端子（TAPE）について

左図の接続以外にも、CDR/PC端子（CDR/PC）に2台目のMDレコーダーやテープデッキなどを、同様にMD端子（MD）、テープ端子（TAPE）にも2台目の機器を接続することができます。（ただしRI端子付きのオンキヨー製テープデッキやMDレコーダー、CDレコーダーなどをこのように接続する場合は、RIケーブルは接続しないでください。）

また、CDR/PC端子にはパソコン用のデジタルオーディオプロセッサーなどを接続することができます。

❷ライン／DVD端子（LINE／DVD）について

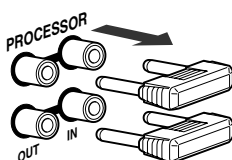
この端子には2台目のCDプレーヤー、テープデッキなどの音声出力やDVDプレーヤー、BSチューナー、ビデオデッキなどの映像機器の音声出力を接続することができます。

接続する機器のOUTPUT（出力）端子を本機のLINE/DVD端子に接続します。

ご注意　この端子にレコードプレーヤーを接続することはできません。
レコードプレーヤーを接続する場合は、フォノイコライザー（当社製PE-155）などをお買い求めの上、それに添付の取扱説明書にしたがって正しく接続してください。

❸プロセッサー端子（PROCESSOR）について

工場出荷時、この端子にはジャンパープラグが差し込んであります。

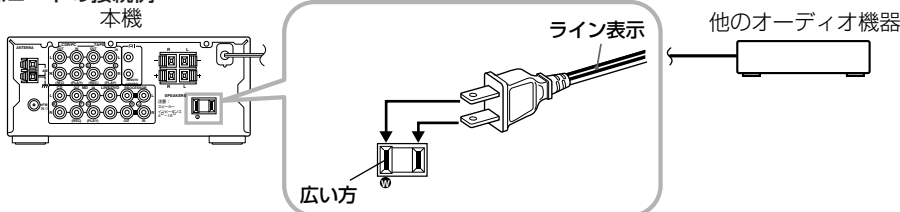
グラフィックイコライザー（EQ-205）やAVサラウンドプロセッサー（ED-205）などを接続する場合は、ジャンパープラグをはずしてからピンコードを接続してください。

- はずしたジャンパープラグは、他の端子に差し込まずに大切に保管しておいてください。他の端子に差し込みますと音が出なくなったり、故障の原因となります
- プロセッサー端子を使用しない場合は、ジャンパープラグを必ずもとの端子にしっかり差し込んでください。（左図のようにジャンパープラグを横向きにしてINとOUTを接続）

■本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続する

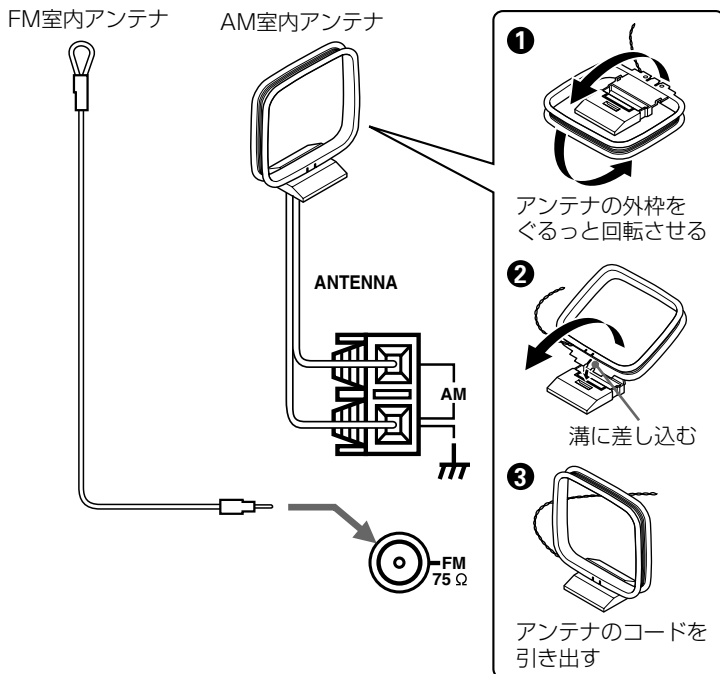
本機の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。当社製のスタンバイボタン（STANDBY/ON）を持った他機とRIケーブルで接続していれば、本機の電源ボタン（STANDBY/ON）と連動させて他機の電源を入れたり、スタンバイ状態にすることができます。この電源コンセントは電源オン時、およびスタンバイ状態において常時電源が供給されています。また、本機がスタンバイ状態の時にエナジーセーブボタン（ENERGY SAVE）を押すと接続されている他機の電源が1分後に切れますのでご注意ください。（25ページの「エナジーセーブボタンについて」をご覧ください。）

接続する前に

- 電源コンセントに接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。100Wを超える場合は、ご家庭の電源コンセントに接続してください。
- 本機の電源コンセントは、より良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。他機の電源コードの白いラインなどの目印側を、本機の電源コンセントの広い方（Ⓦマーク側）に合わせて接続してください。他機の電源コードに極性表示がない場合は、どちらを接続してもかまいません。

電源コードの接続例

アンテナの接続

■室内アンテナの接続

付属のFM、AM室内アンテナをつなぐ

AMアンテナコードのつなぎかた

AM室内アンテナについて

良好な受信状態になるように設置場所を変えたり、左右に回して調整してください。

ご注意

雑音の原因になりますので、AM室内アンテナは本機、パソコン、テレビ、接続コードからできるだけ離して設置してください。

FM室内アンテナについて

電波の強い地域では、付属のFM室内アンテナで放送を聞くことができます。放送を聞きながらひずみや雑音の最も少ない位置に押しピンなどを使ってアンテナの端を固定してください。

室内アンテナで安定した受信ができないときは、屋外アンテナを設置して接続してください。

■屋外アンテナの接続

FM、AM屋外アンテナをつなぐ

平行フィーダー線を市販のアンテナアダプターに接続する場合

❶ ドライバー

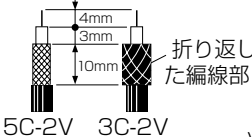
❷ 平行フィーダー線の先端をねじに巻きつける

❸ 両方のねじを締める

同軸ケーブル（5C-2Vまたは3C-2V）を市販のアンテナアダプターに接続する場合

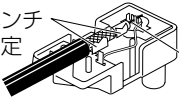
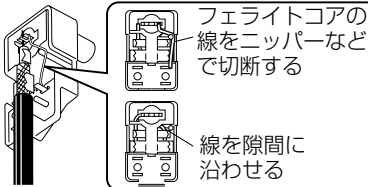
❶ 同軸ケーブルの準備をします

4mm
3mm
10mm
折り返した編線部
5C-2V　3C-2V

❷ アンテナアダプターのカバーを開けます

ツメ部を広げる

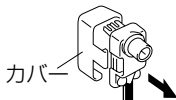
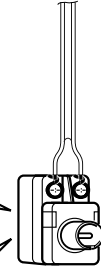
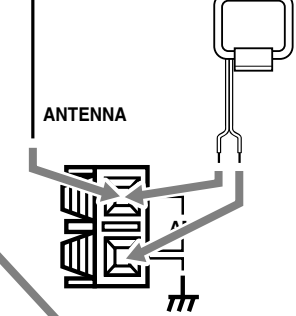
❸ 同軸ケーブルをしっかりと固定します

ラジオペンチなどで固定します

芯線の先端を押し込む

❹ フェライトコアを外します

フェライトコアの線をニッパーなどで切断する

線を隙間に沿わせる

❺ カバーを取り付けます

カバー

AM屋外アンテナについて

鉄筋住宅などでAM室内アンテナだけでは受信状態が悪いときは、5m以上のビニール被覆線を窓ぎわや屋外にはってください。

ご注意

AM屋外アンテナを接続するときも、必ずAM室内アンテナを接続しておいてください。

FM屋外アンテナについて

市販のアンテナアダプターを使用して、上図のように接続します。

ヒント

- 建物の陰にならず、FM放送電波が直接受信できる所に設置してください。
- 自動車のエンジンによる雑音を避けるため、道路からできるだけ離れたところに設置してください。

ご注意

⚠ 送電線の近くは危険ですので絶対に設置しないでください。

- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください。

スピーカーの接続

■スピーカーコードの接続

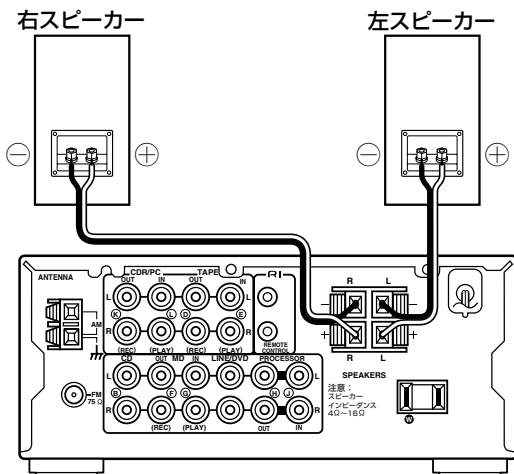
スピーカーコードとスピーカー端子は、以下のように接続してください。

❶
スピーカーコードのビニールカバーの先を芯線を残して10ミリカットする

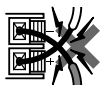
❷
芯線をよじる

❸
スピーカー端子のレバーを押す

❹
コードの芯線を差し込む

❺
指をはなすとレバーが元の位置に戻る

ご注意

- スピーカーコードの芯線部が他の端子や金属部に接触していないか確認してください。
- プラス(＋)とマイナス(－)を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが4Ω～16Ωのものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。

NO

危険

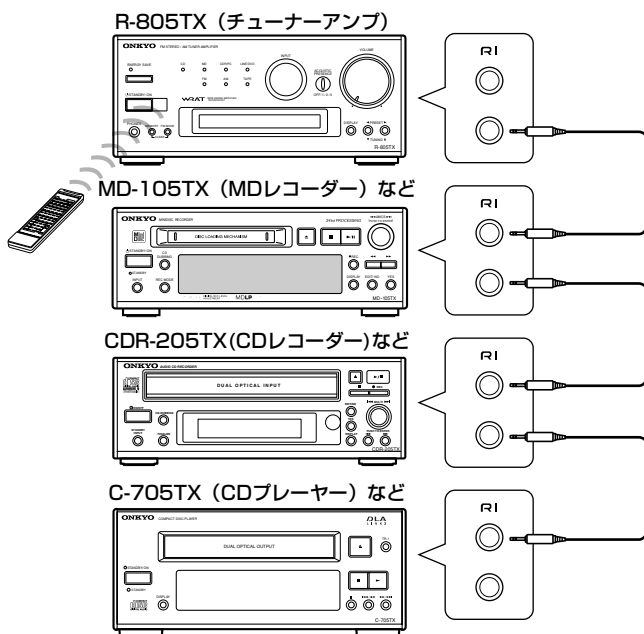
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。

RIケーブルの接続

■RIケーブルの接続

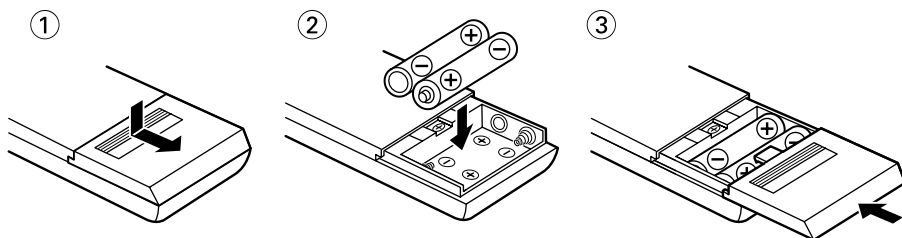
RI（リモート）端子付きオンキヨー製品でシステムアップした場合、システム機能を使うことができます。（本機にはRIケーブルは付属していません。インテック205シリーズの各機器に付属のRIケーブルをご使用ください。）

- 操作は本機に付属のリモコンを使用します。
- 本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご参照ください。

（例）

ご注意

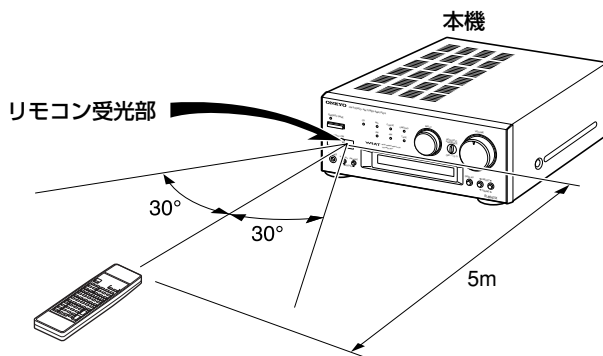
- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせた場合のみ使用できます。RI端子付きオンキヨー製品以外とは接続しないでください。
- RI端子の2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

リモコン

■乾電池の入れかたと交換のしかた

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。

ご注意

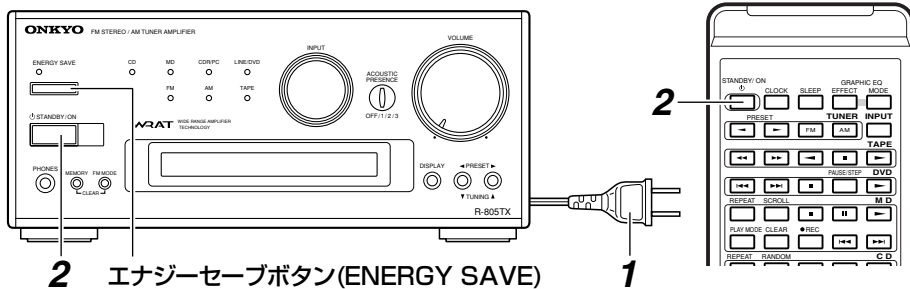
- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

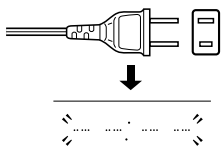
■リモコンの使い方

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

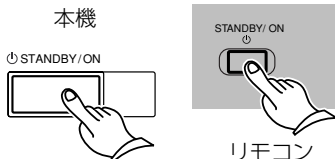
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

電源を入れる

あらかじめ、音量調整ツマミ(VOLUME)は左いっぱいに回しておいてください。

リモコンのボタンは　　で表示しています。

1

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

電源プラグを差し込むとスタンバイ状態になり、ディスプレイに“－－：－－”が表示されます。

2

電源を入れる

電源ボタン(STANDBY/ON)を押すと電源が入ります。
もう一度このボタンを押すと電源がスタンバイ状態になります。

回路が安定するまでに5秒程かかります。その間は音は出ません。

エナジーセーブボタン(ENERGY SAVE)について

エナジーセーブインジケーターが点滅中に再度エナジーセーブボタンを押すと、エナジーセーブは解除されスタンバイ状態になります。

本機がスタンバイ状態の時にエナジーセーブボタン(ENERGY SAVE)を押すと1分後に本機の電源コンセントに接続されている機器の電源を切ります。

エナジーセーブボタンを押すと…

- エナジーセーブインジケーターがゆっくりと点滅をはじめ、1分後に点灯状態になります。
- ディスプレイは“ENERGY SAVE”がスクロールした後消灯しますが、本機のタイマーは動作しています。

他機の電源が切れた後は、ダイレクトプレイは働きません。再度電源を入れるには、本機またはリモコンの電源ボタン(STANDBY/ON)を押してください。(本機の電源コンセントに接続された機器は、少し遅れて電源が入ります。)

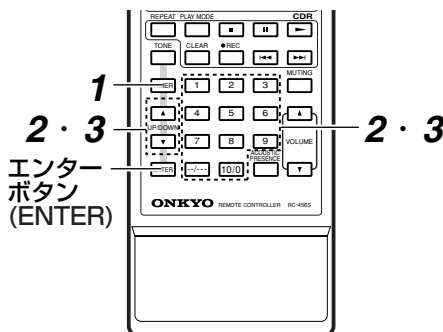
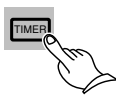
現在時刻と曜日を合わせる

■時刻合わせをするには

付属のシステムリモコン（RC-456S）を使って操作します。

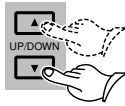
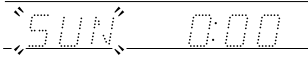
- 電源の入／切に関係なく時刻を合わせることができます。
- 本書では24時間表示での設定方法を説明していますが、設定後に12時間表示に切り換えることもできます。

ご注意

- 数字ボタンで曜日や時刻を設定する場合は、時刻表示を24時間表示で行ってください。12時間表示ですと、数字ボタンでは設定をすることができません。
- 時計を合わせたあとで停電があったり、電源コードをコンセントから抜いた場合は、“−− : −−”が表示されます。この時は再度時刻を合わせてください。
- 時計機能をご使用になる場合は、必ず本機の電源コードを常時通電している電源コンセントに接続してください。

“ADJUST”を選ぶ

タイマーボタン（TIMER）をくり返し押して、“ADJUST”を選びます。

- “ADJUST”表示のときにエンターボタン（ENTER）を押してください。
- タイマーボタンを押したあと約8秒間次の操作をしなかった場合、元の表示に戻ります。

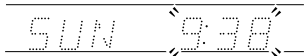
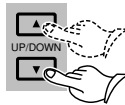
2

リモコン

曜日を合わせる

アップ▲/ダウン▼ボタン(UP/DOWN)を押すと曜日が切り換わります。リモコンの数字ボタンで入力することもできます。

- 希望の曜日(日曜日の場合はSUN)が点滅しているときに、エンターボタン(ENTER)を押します。

  曜日の表示は下記の通りです。

  1：SUN（日曜日） 5：THU（木曜日）
  2：MON（月曜日） 6：FRI （金曜日）
  3：TUE （火曜日） 7：SAT（土曜日）
  4：WED（水曜日）

3

時計を合わせる

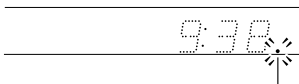
アップ▲/ダウン▼ボタンまたは数字ボタンで時刻を入力します。

数字ボタンでの入力例：

午前9時38分にセットするには
10/0+9+3+8+ENTER

午前11時00分にセットするには
1+1+10/0+10/0+ENTER

- 10/0は0を表わします。

4

点滅
(時計がスタートします。)

時計をスタートさせる

時報などに合わせて、エンターボタンを押してください。

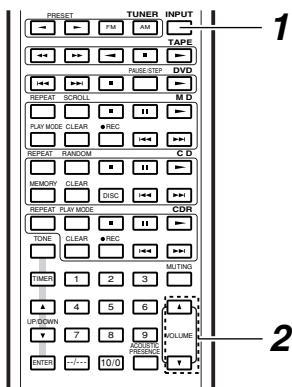
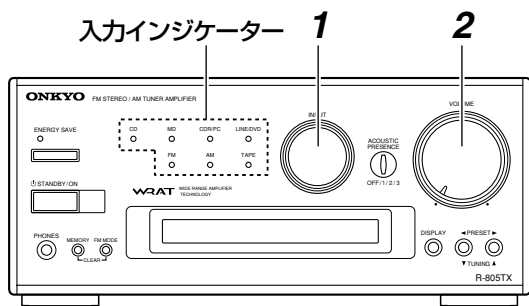
24時間表示／12時間表示を切り換えるには

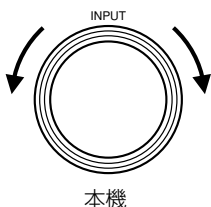
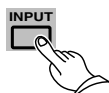
1. タイマーボタン（TIMER）をくり返し押す。
  - 表示部に“24H/12H”が表示されます。

2. エンターボタンを押す。

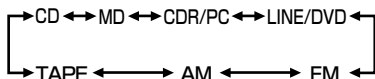
3. アップ▲/ダウン▼ボタンで24H（24時間表示）または12H（12時間表示）を選ぶ。

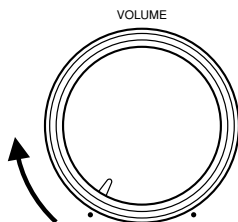
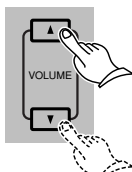
4. エンターボタンを押し、決定する。

演奏する

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本機

リモコン

入力切り換えツマミ（INPUT）で聞く機器（ソース）を選ぶ

- 選んだ機器（ソース）のインジケーターが点灯します。
- 本機の入力切り換えツマミは左右どちらの方向にも切り換えることができます。

リモコンのインプットボタン(INPUT)では、右回り方向にのみ順次切り換わります。

2

本機　　リモコン

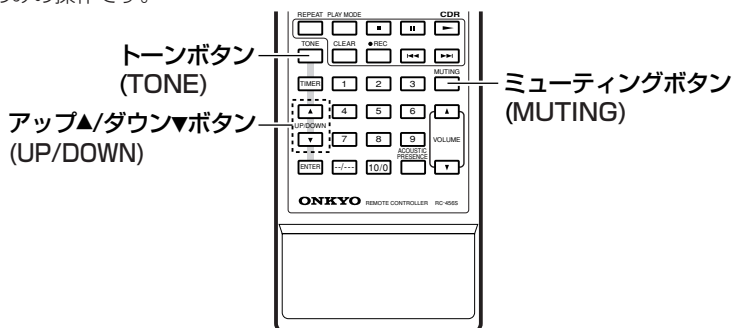
機器の演奏を始め、音量を調整する

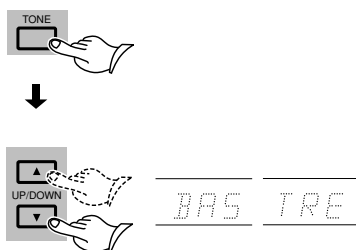
- 音量調整ツマミ（VOLUME）でお好みの音量に調整してください。
- 演奏のしかたは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

いきなり大きな音を出すとスピーカーが壊れることがあります。音を聞きながら少しずつ右に回して(音量が上がる)調整してください。

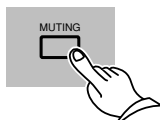
■音質を調整する

リモコンのみの操作です。

BAS(低音)、TRE(高音)を調整する

トーンボタン（TONE）を押すたびに、ディスプレイが下記のように切り換わります。

→BAS → TRE →入力／キャラクター表示

- “BAS”表示のときにUP（▲）またはDOWN（▼）ボタンで低音を調整します。（＋10〜－10の範囲で±5段階に調整できます。）
  同様に“TRE”表示にすると高音を調整することができます。
- エンターボタン（ENTER）を押すと、元の表示（入力）に戻ります。

音量を一時的に小さくする（ミューティング）

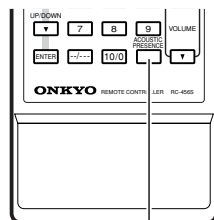
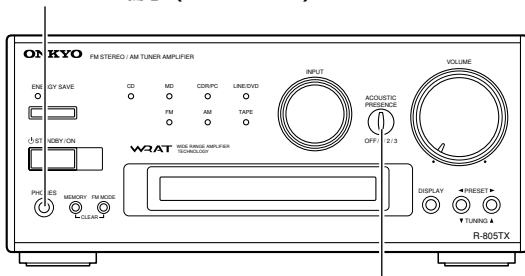
リモコンのみの操作です。

- 音はごく小さくなります。
- ディスプレイの“MUTING”が点滅します。

ミューティングを解除するには

もう一度ミューティングボタン(MUTING)を押してください。また、リモコンの音量調整ボタンを押すか、電源ボタンを押した場合にも解除されます。

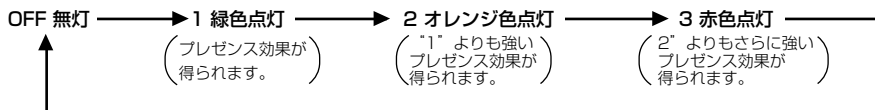
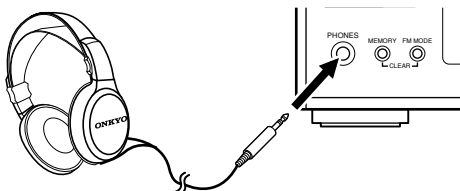
■アコースティックプレゼンスボタン（ACOUSTIC PRESENCE）について

アコースティックプレゼンスとは ……… 音楽のリアルな存在感“プレゼンス”を高める効果を持つオンキヨー独自の回路です。特にコンパクトサイズのスピーカーではON（1、2または3）でご使用されることを推奨いたします。

ヘッドホン端子(PHONES)

アコースティックプレゼンスボタン/インジケーター
(ACOUSTIC PRESENCE)

アコースティックプレゼンスボタン
(ACOUSTIC PRESENCE)

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

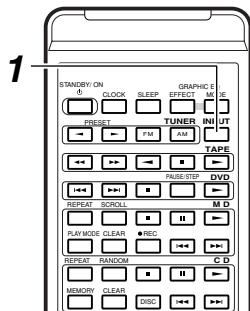
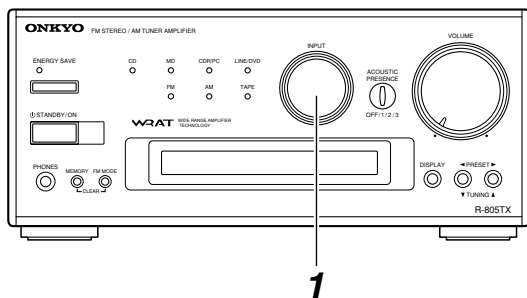
アコースティックプレゼンスボタン(ACOUSTIC PRESENCE)を押すたびに次のように切り換わります。

ヘッドホンで聞くには

ヘッドホン端子（PHONES）にステレオミニプラグのヘッドホンを接続します。接続するときは、音量を下げてください。

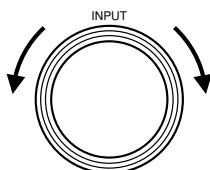
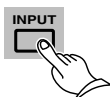
スピーカーからの音が消え、ヘッドホンで音が聞こえるようになります。

録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

■録音する

● 録音中にグラフィックイコライザーを操作しても、録音される音に影響はありません。

リモコンのボタンは　　で表示しています。

1

本機

リモコン

録音する機器（ソース）を選ぶ

入力切り換えツマミ(INPUT)で録音したいソースを選びます。

2

録音する機器の準備をする

● MDレコーダーやテープデッキを録音待機状態にします。
● 録音レベルの調整はMDレコーダーや、テープデッキで行ってください。
● 録音のしかたについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

3

録音を始める

1で選んだソースを演奏します。

録音中に入力切り換えツマミを切り換えないでください。

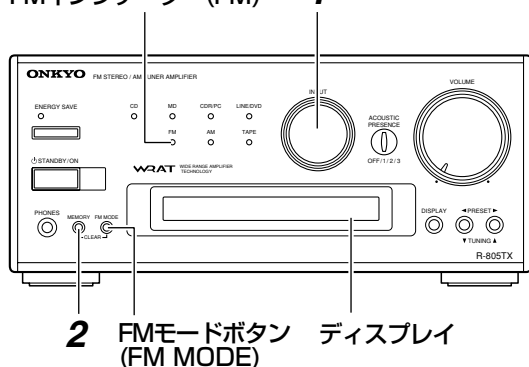
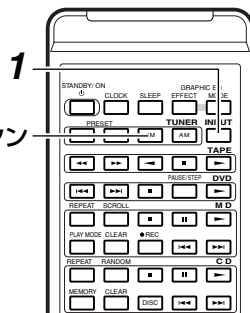
放送を聞く

放送局を記憶させるには、次の 2 通りの方法があります。

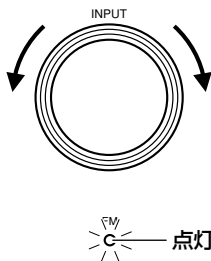
- 受信可能なFM放送局を続けて受信し、自動的に記憶させる（オートプリセットメモリー）。
- 希望の放送局を受信し、希望のプリセットナンバーに記憶させる（プリセットメモリー）。

ご注意

- AM放送局を受信中にリモコンを操作すると、雑音が入ることがあります。
- 電源コードを抜いたり停電状態が24時間以上続くと、プリセットされていた放送局やキャラクターなどは消えることがあります。その場合は、再度プリセットしてください。

■自動的に放送局を記憶させる（オートプリセットメモリー）(FMのみ)

リモコンのボタンは　　で表示しています。

入力切り換えツマミ(INPUT)でFMを選ぶ

FMインジケーターが点灯します。

2

押し続ける

オートプリセットメモリーを始める

“AUTO”が点滅し、周波数表示が出て放送局を探し始めるまでメモリーボタン（MEMORY）を押し続けます。

- FMの最初から自動的に放送局を記憶していきます。
- プリセットナンバーは周波数の低い順に、最大20局まで放送局を記憶します。

ご注意

- 今までに記憶させたすべての放送局は、オートプリセットメモリーで記憶させた放送局に変更されます。
- FMの受信周波数範囲は76.00〜108.00MHzですが、オートプリセットメモリーは76.00〜90.00MHzの間しか行われません。

■オート／モノの切り換えについて

FM MODE

FMステレオ放送をオートモードで受信する場合は、FMモードボタン（FM　MODE）を押し、“AUTO”表示を点灯させます。

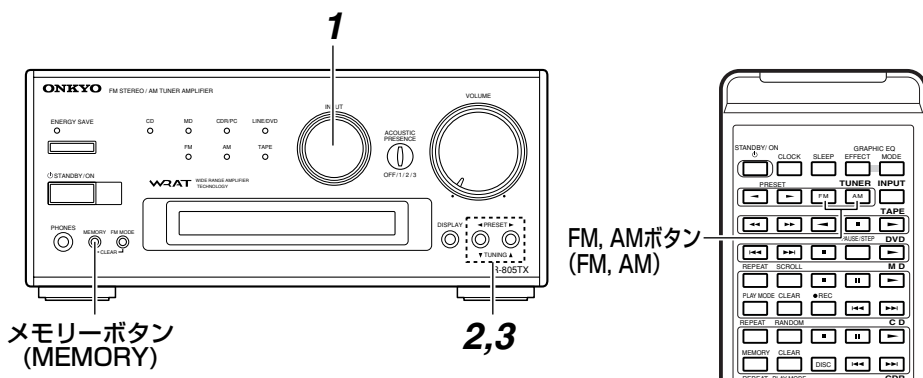
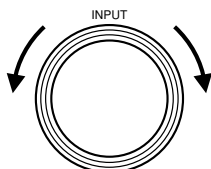
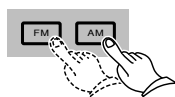
- オートモードでFMステレオ放送を受信すると、“STEREO”の表示が点灯します。

ヒント

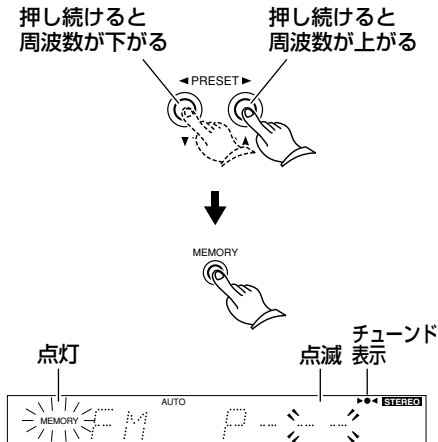
- 電波の弱い所や雑音の多い所では、“STEREO”表示は点灯しません。
  “STEREO”表示が点滅している場合はもう一度FMモードボタンを押して、“MONO”表示に切り換えてモノラル受信してください。雑音や音の途切れを軽減することができます。
- 受信状態の悪い場合は、室内アンテナの方向を変えたり、または窓際などの電波の強い場所へ移動してみてください。それでも改善されない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。

■希望の放送局を受信し、記憶させる（プリセットメモリー）

ご注意

- メモリーボタン（MEMORY）を長く押し続けると“AUTO”点滅表示となり、さらに押し続けるとメモリーされたプリセット局がすべて消去されるオートプリセット動作に入りますので、ご注意ください。
- メモリーボタンを押したあとに約8秒間次の操作をしなかった場合、元の周波数表示に戻ります。（メモリー表示消灯）

リモコンのボタンは　　で表示しています。

受信バンド（FM/AM）を選ぶ

入力切り換えツマミ（INPUT）またはリモコンのFM、AMボタンで希望の受信バンドを表示させてください。

2

放送局(周波数)を選び、記憶させる

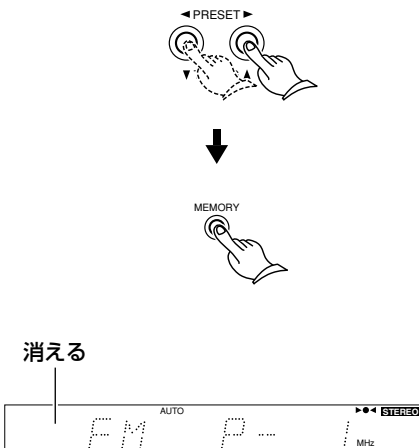
プリセット/**チューニング**ボタン(TUNING)を押して希望の放送局を受信します。

- 放送局を受信すると表示部にチューンド表示が点灯します。
  FMの場合は50kHz単位、AMの場合は9kHz単位で周波数が変わります。
  FMの場合は▲ボタン(または▼ボタン)をしばらく押してから手を離すと自動的に100kHzずつ周波数が上がり(下がり)放送局を受信すると止まります。(自動受信)
- 本機はテレビの1〜3chの音声を受信することができます。オートチューニングでは止まりませんので、プリセット/**チューニング**ボタンで選局してください。

  テレビの音声周波数
  1ch: 95.75MHz、2ch:101.75MHz、
  3ch: 107.75MHz

メモリーボタン(MEMORY)を押して記憶させます。

- "MEMORY"表示が点灯します。

3

プリセットナンバーを選び、記憶させる

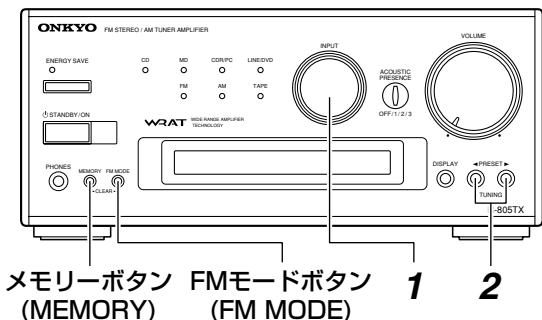
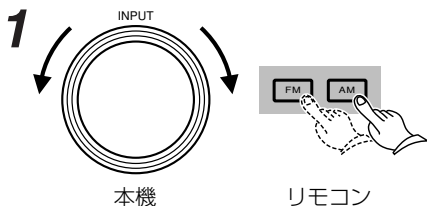
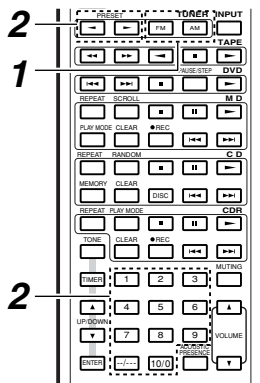
プリセット/チューニングボタン(PRESET)を押して"-- --"に希望のプリセットナンバーを表示させます。

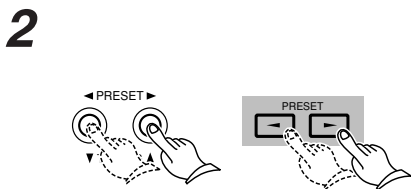
- メモリーボタンを押すと"MEMORY"表示が消え、手順2で選んだ放送局が記憶されます。

ヒント

- 次の放送局をメモリーするには、手順2、3をくり返します。
- すでにプリセットされているナンバーは、表示の点滅が早くなります。このとき、あらたにプリセットすると元の放送局は消去されます。
- 記憶させることのできる放送局はAM、FM合わせて30局です。30局を越えると、"FULL"表示になり、それ以上は記憶できません。

放送を聞く

■プリセットした放送局を聞く

リモコンのボタンは で表示しています。

受信バンド（FM/AM）を選ぶ

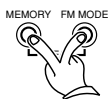
入力切り換えツマミ（INPUT）またはリモコンのFM、AMボタンで希望の受信バンドを表示させてください。

聞きたいプリセット局の番号を選ぶ

プリセット／チューニングボタン(PRESET)またはリモコンの数字ボタンを押して希望の放送局を受信してください。

数字ボタンで選ぶには

5：5

12：--/--- 1 2

25：--/--- 2 5

プリセットした放送局を消す

- 上記「プリセットした放送局を聞く」の方法にしたがって、消したい放送局を選びます。
- メモリーボタン（MEMORY）を押しながら、FMモードボタン（FM MODE）を押します。
  プリセット局表示が P - - になり、消去されます。

キャラクターを入れる

■キャラクターを登録する

プリセットメモリーした放送局ごとの愛称を好みのキャラクターを使って8文字まで表示することができます。

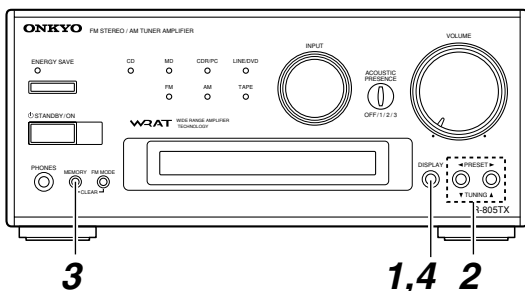
- キャラクターの種類は次の通りです。

␣A B C D E F G H I J K L
M N O P Q R S T U V W X Y
Z " & ' ( ) * + , - 、 / = ? [\
] I 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

␣はスペースを意味します。

1

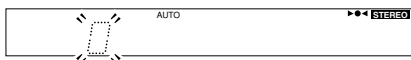
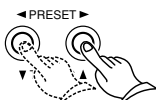
DISPLAY

AUTO STEREO

キャラクターモードにする

希望のプリセット局を受信し、ディスプレイボタン（DISPLAY）を2秒以上押します。

2

◄PRESET►

AUTO STEREO

キャラクターを選ぶ

プリセット／チューニングボタン◄／►（PRESET）を押してキャラクターの種類を選びます。

3

MEMORY

AUTO STEREO

キャラクターを記憶させる

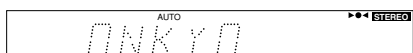
メモリーボタン（MEMORY）を押して記憶させます。

- 手順2、3をくり返して合計8文字まで記憶させることができます。

ヒント 空白にしたいときは、空白のままでメモリーボタンを押してください。

4

DISPLAY

AUTO STEREO
ONKYO

登録する

ディスプレイボタンを2秒以上押します。

ヒント カーソルが一番右端にある場合は、メモリーボタンを押すと登録できます。

キャラクターを入れる

■キャラクターを変更する

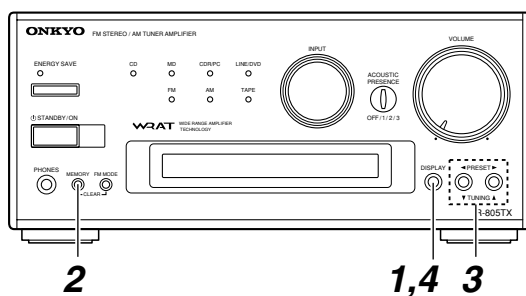
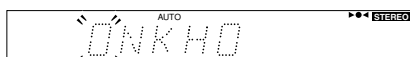
1

DISPLAY

キャラクターモードにする

希望のプリセット局を受信し、ディスプレイボタン（DISPLAY）を2秒以上押します。

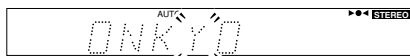
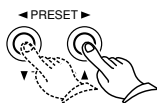
AUTO STEREO
ONKHO

2

MEMORY

変更するキャラクターを選ぶ

メモリーボタン（MEMORY）で変更したい箇所まで点滅を移動させます。

AUTO STEREO
ONKHO

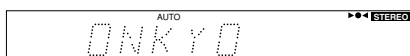
3

◀PRESET▶

キャラクターの種類を選ぶ

プリセット／チューニングボタン◀／▶（PRESET）を押して希望のキャラクターを選びます。

- 他に変更したいキャラクターがあるときは、手順2、3をくり返します。

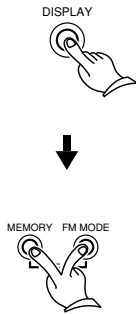
AUTO STEREO
ONKYO

4

DISPLAY

変更登録する

変更が終わったら、ディスプレイボタンを2秒以上押します。

AUTO STEREO
ONKYO

キャラクターを消すには

キャラクター表示中に2秒以上ディスプレイボタン（DISPLAY）を押します。

● メモリーボタン(MEMORY)を押しながら、FMモードボタン（FM MODE）を押してください。表示されていたキャラクターが全て消えます。

表示を切り換えるには

時刻合わせやキャラクター入力をしていれば、ディスプレイボタンを押すごとに

周波数→キャラクター→時計

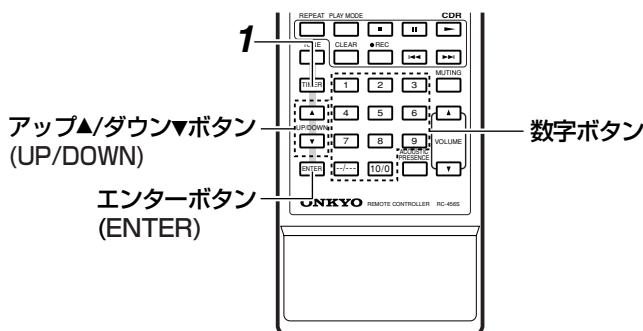
の順に切り換わります。

プリセットした放送局を聞くときは、キャラクター表示の方を優先して表示します。キャラクターを登録していないときは、放送局（周波数）の表示となります。

タイマー演奏と録音（システム操作）

付属のシステムリモコン（RC-456S）を使って操作します。

ご注意

- タイマー演奏中または録音中は、現在時刻や終了時刻などの設定を変更することはできません。
- 時計が“－－：－－”を表示している場合は、タイマー演奏やタイマー録音はできません。必ず時刻を合わせてください。現在時刻の設定については 26、27 ページをご覧ください。
- システム接続を確実に行なってください。接続が不完全ですと、タイマー演奏やタイマー録音はできません。

タイマーのモードについて

WEEKDAY：ウィークデイ（月〜金曜日）のタイマー演奏時刻を設定します。
- ウィークデイに含む曜日は、DAY SETで変更できます。

WEEKEND：ウィークエンド（土曜日と日曜日）のタイマー演奏時刻を設定します。
- ウィークエンドに含む曜日は、DAY SETで変更できます。
- ウィークデイとウィークエンドは同じ曜日を設定することもできます。一日に二つのプログラムを設定する場合は、WEEKDAYとWEEKENDを同じ曜日に設定してそれぞれの時刻なども設定してください。

REC：NEXT、曜日、EVERYDAYの設定ができます。EVERYDAY以外は、設定した時刻に一度だけタイマー録音を行います。毎日同じ時間に録音したい場合は、EVERYDAYを選びます。

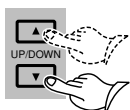
DAY SET：タイマー演奏の曜日を設定します。

ADJUST：現在時刻と曜日を設定します。すでに合わせている場合は、設定する必要はありません。

■タイマー演奏をする曜日を選ぶ…お好みの曜日に演奏をお楽しみになれます。

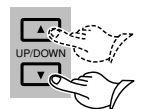
ご注意

数字ボタンで曜日を設定する場合は、時刻表示を24時間表示で行ってください。12時間表示ですと、数字ボタンでは設定をすることができません。

1 タイマーボタン（TIMER）をくり返し押して"DAY　SET"表示を選び、エンターボタン（ENTER）を押します。

2 アップ▲／ダウン▼ボタン（UP/DOWN）を押して"WEEKDAY"または"WEEKEND"を選び、エンターボタンを押します。

3 数字ボタンを押すか、またはエンターボタンをくり返し押して、変更する曜日を点滅させます。

数字ボタンで選ぶ場合

1：S　（日曜日）
2：M　（月曜日）
3：T　（火曜日）
4：W（水曜日）
5：T（木曜日）
6：F（金曜日）
7：S（土曜日）

4 アップ▲／ダウン▼ボタンを押して設定を変更し、エンターボタンを押します。表示させた曜日にタイマーが動作します。

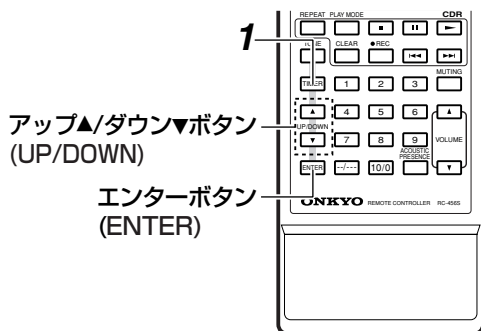
5 エンターボタンを押して右端の文字やカーソルを点滅させます。右端の文字やカーソルが点滅しているときに、再度エンターボタンを押して終了させます。

タイマー演奏と録音（システム操作）

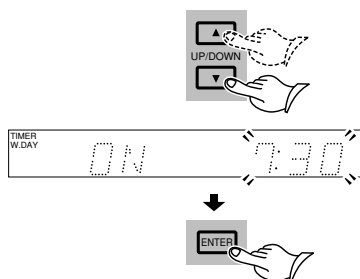
■タイマー演奏をする

FM、AMのタイマー演奏やタイマー録音は放送局をプリセットしておいてください。
プリセットの方法は、「放送を聞く」（32～36ページ）をご覧ください。

ご注意

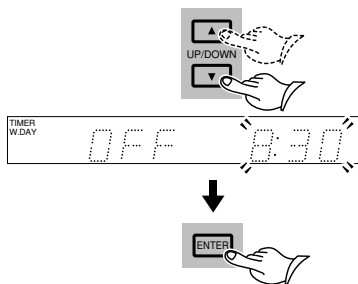
時計を合わせていないとタイマーは働きません。必ず現在時刻を合わせてください。

“WEEKDAY”または“WEEKEND”を選ぶ

タイマーボタン（TIMER）をくり返し押して“WEEKDAY”または“WEEKEND”を選びエンターボタン（ENTER）を押します。

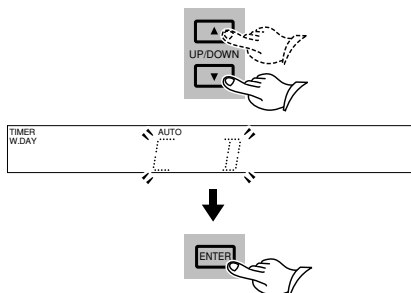
2

演奏開始時刻を設定する

アップ▲/ダウン▼ボタン(UP/DOWN)で開始時刻(ON)を選び、エンターボタンを押します。

- アップ▲/ダウン▼ボタンの代わりに数字ボタンで演奏開始、終了時刻を設定することもできます。数字ボタンで設定する場合は27ページの手順3を参照の上、時刻表示を24時間表示で行ってください。12時間表示ですと、数字ボタンでは設定をすることができません。
- 開始時刻(ON)を設定すると終了時刻(OFF)は自動的に1時間後の表示になります。

3

演奏終了時刻を設定する

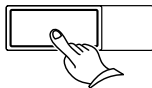
アップ▲/ダウン▼ボタンで終了時刻（OFF）を選び、エンターボタンを押します。

4

演奏するソースを選ぶ

アップ▲/ダウン▼ボタンでCD、MD、CDR、LINE/DVD、FM、AM、TAPEのいずれかを選び、エンターボタンを押します。
FMまたはAMを選んだ場合は、再度アップ▲/ダウン▼ボタンを押してプリセットナンバーを選び、エンターボタンを押します。

- CDRを選んだ場合、タイマー時刻になると表示部にはCDR/PCと表示されます。
- 本機に接続されていないソースを選んだ場合、タイマー時刻になると電源が入り、入力が切り換わりますが、動作しません。

■タイマー演奏をする（つづき）

5

電源をスタンバイ状態にする

本機の電源ボタン（STANDBY/ON）を押して、システムの電源をスタンバイ状態（ディスプレイのみ点灯状態）にします。

電源がスタンバイ状態以外のときには、タイマー時刻になってもタイマー動作しません。タイマー動作させるときには、必ず電源をスタンバイ状態にしておいてください。

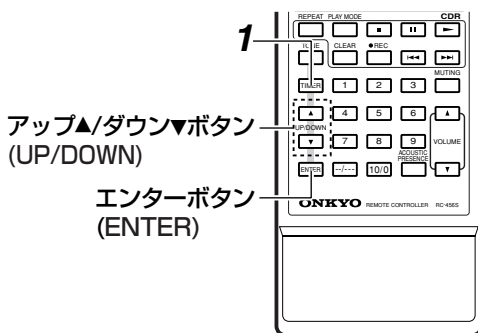
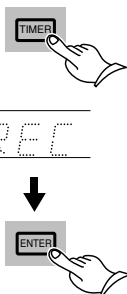
ヒント

エナジーセーブ状態でも、タイマー演奏は働きます。

■タイマー録音をする

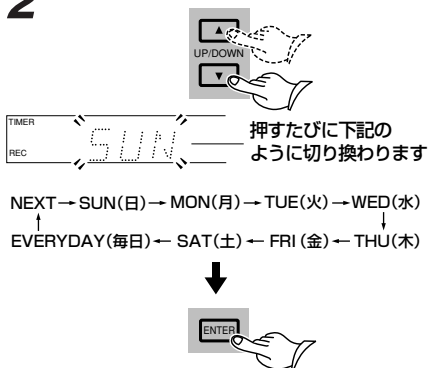
FM、AMのタイマー演奏やタイマー録音は放送局をプリセットしておいてください。
プリセットの方法は、「放送を聞く」（32〜36ページ）をご覧ください。

ご注意

- 時計を合わせていないとタイマーは働きません。必ず現在時刻を合わせてください。
- EVERYDAY録音以外のタイマー録音の実行は一度だけです。タイマー録音が終了すると予約は解除されます。

“REC”を選ぶ

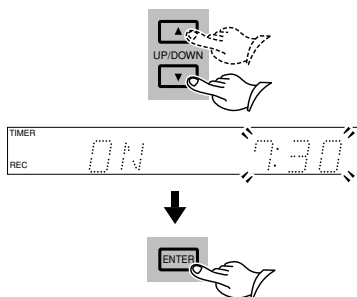
タイマーボタン（TIMER）をくり返し押して“REC”表示を選び、エンターボタン（ENTER）を押します。

■タイマー録音をする（つづき）

2

曜日を設定する

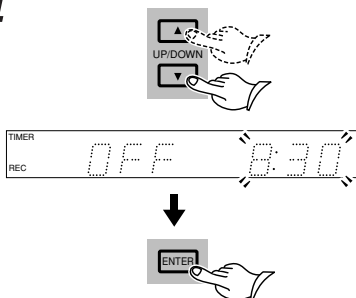
アップ▲/ダウン▼ボタン(UP/DOWN)でNEXT、曜日(日～土)またはEVERYDAY(毎日)を選び、エンターボタン(ENTER)を押します。

- "NEXT"を選ぶと曜日にかかわらず、設定した時刻がきたときにタイマーが働きます。
- "EVERYDAY"を選ぶと設定した時刻に毎日タイマー録音が始まります。(ラジオの英会話などを録音する場合に便利です。)

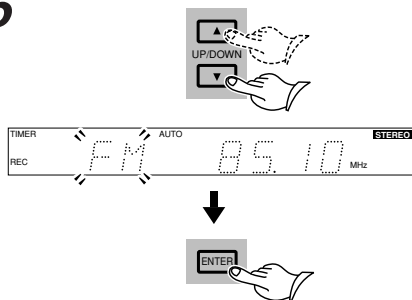
3

録音開始時刻を設定する

アップ▲/ダウン▼ボタンで開始時刻（ON）を選び、エンターボタンを押します。

- アップ▲/ダウン▼ボタンの代わりに数字ボタンで録音開始、終了時刻を設定することもできます。数字ボタンで設定する場合は27ページの手順3を参照の上、時刻表示を24時間表示で行ってください。12時間表示ですと、数字ボタンでは設定をすることができません。
- 開始時刻(ON)を設定すると終了時刻(OFF)は自動的に1時間後の表示になります。

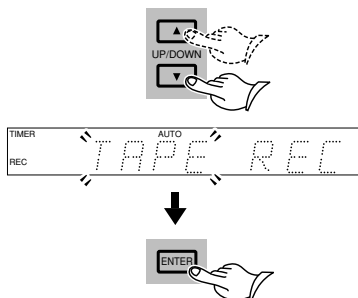
4

録音終了時刻を設定する

アップ▲/ダウン▼ボタンで終了時刻（OFF）を選び、エンターボタンを押します。

5

録音するソースを選ぶ

アップ▲／ダウン▼ボタンで“FM”または“AM”、“LINE/DVD”を選び、エンターボタンを押します。

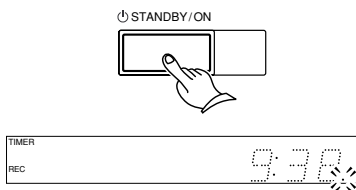
- FMまたはAMを選んだ場合は、再度アップ▲/ダウン▼ボタンを押してプリセットナンバーを選び、エンターボタンを押します。

6

録音する機器を選ぶ

アップ▲/ダウン▼ボタンで“TAPE REC”、“MD REC”、“MD/TAPE”のいずれかを選び、エンターボタンを押します。

ご注意

MDレコーダーにFMまたはAMなどをアナログ録音するときは、MDの録音入力の設定は必ずAnalog Inにしてください。

7

電源をスタンバイ状態にする

本機の電源ボタン（STANDBY/ON）を押して、システムの電源をスタンバイ状態（ディスプレイのみ点灯状態）にします。

- タイマー録音中はミューティングが働いています。録音中の音を確認したいときは、リモコンのミューティングボタン（MUTING）を押して、解除してください。

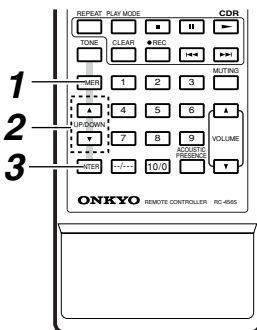
ご注意

電源がスタンバイ状態以外のときには、タイマー時刻になってもタイマー動作しません。タイマー動作させるときには、必ず電源をスタンバイ状態にしておいてください。

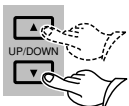
エナジーセーブ状態でも、タイマー録音は働きます。

■タイマーのオン（実行）／オフ（取消し）を切り換える

- 予約したタイマーの実行を取り消したいとき、取り消したタイマーを再び実行させたいとき、またはタイマー録音を再び実行させたいときに使います。
- 時計の現在時刻が設定されていないとタイマーを動作させることはできません。

1

タイマーモードを表示させる

タイマーボタン(TIMER)をくり返し押して、希望のタイマーモード（WEEKDAY、WEEKEND、REC）を表示させます。

2

オン(実行)／オフ(取消し)を切り換える

アップ▲/ダウン▼ボタン（UP/DOWN）を押してオン（ON）/オフ（OFF）を切り換えます。

ご注意

アップ▲/ダウン▼ボタンを押さずにエンターボタン（ENTER）を押すと、開始時刻などの設定モードになります。

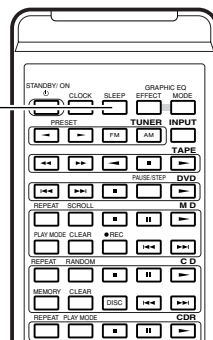
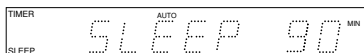
3

エンターボタン(ENTER)を押す

タイマーがオンのときは、ディスプレイの左端にタイマーモード (W.DAY、W.END、REC) が表示されます。

■スリープタイマー

- 設定した時間がすぎると、スタンバイ状態になります。
- タイマー演奏中、タイマー録音中にスリープタイマーを動作させると、スリープタイマーの設定時刻で電源が切れます。

スリープボタン
(SLEEP)

スリープ時間を設定する

スリープボタン（SLEEP）を押すたびに90分から10分単位で時間が短くなります。

残り時間を確かめるには

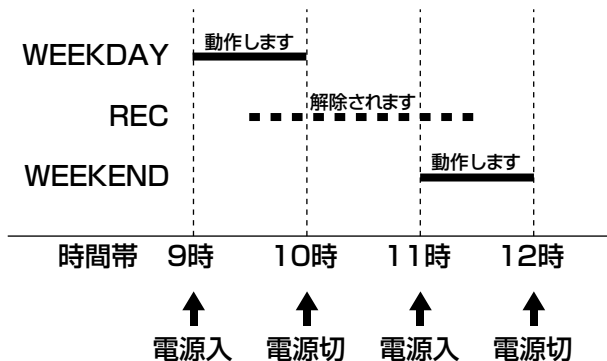
スリープ動作中にスリープボタンを押すと電源が切れるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びスリープボタンを押すとスリープは解除されます。

スリープタイマーを解除するには

スリープインジケーターが消えるまでスリープボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

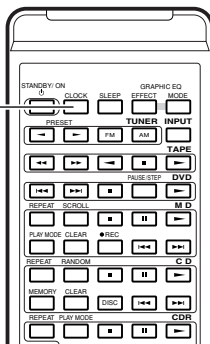
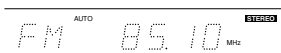
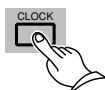
CDダビング中はダビングが完了してからスタンバイ状態になります。

タイマー演奏と録音（システム操作）

■タイマー動作が重なった場合

- タイマー演奏（WEEKDAY）などですでに電源が入っているときに、タイマー録音（REC）など別のタイマー設定の開始時刻になっても、そのタイマーは動作しません。電源は先に動作しているタイマーの終了時刻になったときに切れます。
- また、WEEKDAYのタイマー終了時刻とRECのタイマー開始時刻が同じ場合もRECタイマーは動作しません。どのタイマー設定の場合も終了時刻から開始時刻は1分以上の間隔をとってください。
- WEEKDAY／WEEKEND／RECの2つ以上のタイマーが同じ時刻で設定されている場合、開始時刻で動作するタイマーの優先順位はWEEKDAY→WEEKEND→RECの順です。
- RECタイマーは、本機の電源が入っているなどで開始時刻が無効の場合、タイマー設定表示が消え予約を解除します。

現在時刻の表示

■現在時刻を表示させるには

● 本機のディスプレイボタン(DISPLAY)でも操作することができます。(39ページをご覧ください。)

現在時刻を表示する

クロックボタン（CLOCK）を押すと曜日と時刻が表示されます。

● 元の表示に戻す場合は、もう一度クロックボタンを押します。
● 時刻合わせがされていませんと“ADJUST”を点滅表示します。
  時刻合わせをしてください。
  (26、27ページをご覧ください。)

故障？と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（R-805TX）」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

症状	原因	処置
電源スイッチ（STANDBY/ON）を押しても電源が入らない。	●電源プラグの差し込みが不完全。	●電源プラグをコンセントにしっかりと差し込み直してください。
スピーカーの左右とも音が出ない。	●スピーカーコードの芯線部が他の端子や金属部に接触している。	●スピーカー端子の接続を点検してください。
	●音量が最小になっている。	●音量調整ツマミ（VOLUME）で適当な音量にしてください。（28ページ参照）
	●ミューティングがはたらいている。	●リモコンのミューティングボタン（MUTING）を押して解除してください。（29ページ参照）
	●ヘッドホンを接続している。	●ボリュームを下げてからヘッドホンをはずしてください。（30ページ参照）
	●プロセッサー端子にジャンパープラグが差し込まれていない。	●ジャンパープラグを差し込んでください。（19ページ参照）
	●CDプレーヤーやMDレコーダーなどから音の信号が入力されない。（音が出ていない）	●CDプレーヤーやMDレコーダーなど接続されている機器をお調べください。
スピーカーの片側しか音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●スピーカー端子の接続を点検してください。
	●プロセッサー端子にジャンパープラグが差し込まれていない。	●ジャンパープラグを差し込んでください。（19ページ参照）
タイマー演奏をしたが音が出ない。	●音量が最小になっている。	●適当な音量に調整しておいてください。
市販のオーディオタイマーを使用したが電源が入らない。	●オーディオタイマーは使用できません。	●本機のタイマーをご使用ください。
リモコンで操作できない。	●電池が消耗している。	●電池を新しいものと交換してください。
	●本機と距離がありすぎる、角度が悪い。	●リモコンは本機との距離が約5m以内、前面パネルとの角度が左右にそれぞれ30°以内で操作可能です。
	●本機との間に障害物がある。	●リモコンの操作位置を変えるか、障害物を取り除いて操作してください。

症状	原因	処置
FMステレオ放送のとき、モノラル放送にくらべ「サー」というノイズが出る。	● FMステレオ電波はモノラル電波に比べ、変調のしかたが異なるので放送局の電波の強さによってはノイズが少し出る。	● リモコンのトーンボタン(TONE)で高音部を下げてみてください。 ● FMモードボタン(FM MODE)を押してモノに切り換えてください。
モノラル放送、ステレオ放送ともノイズが多い。	● アンテナの設置場所や向きが不適当。 ● 放送電波が弱い。	● 室内アンテナなら屋外アンテナにしてください。 ● アンテナの設置場所、高さ、方向を変えてみてください。 ● 素子数の多いアンテナに変えてみてください。 （アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください。）
FMステレオ放送で“STEREO”表示が点滅し、完全に点灯しない。	● アンテナの向きが不適当。 ● 放送電波が弱い。	
音がひずんだり小さくなったりする。	● 電波の乱れ。 ● 近くを自動車が走っていたり、飛行機が飛んでいる。	
ＦＭステレオ放送でノイズが多く、ときどき音が出なくなる。	● アンテナの設置場所や向きが不適当。 ● 放送電波が弱い。	
FMステレオ放送で音にひずみが多い。	● 送信所からの電波(直接波)と近くのビルや山に反射した電波(反射波)との干渉によるマルチパスひずみが生じている。	
AM放送受信時、ノイズが入る。	● TVがすぐそばにあり、電源が入っている。	● AM室内アンテナをTVから離してください。 ● TVの電源を切ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約５秒後に改めて電源プラグを入れてください。

ご注意

製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることをご確認の上、録音を行ってください。

主な仕様

■アンプ（音声）部

実用最大出力：CD→SP OUT 4Ω（EIAJ）　29W+29W
定格出力　1kHz：CD→SP OUT 8Ω 両ch駆動　15W+15W
CD→SP OUT 4Ω 両ch駆動　21W+21W
ダイナミックパワー：6Ω　20W+20W
4Ω　26W+26W
全高調波ひずみ率：CD→SP OUT 8Ω 1kHz定格出力時　0.2%
CD→SP OUT 8Ω 40～20kHz定格出力時　0.5%
混変調ひずみ率：CD→SP OUT 8Ω 両ch駆動　0.2%
ダンピングファクター：1kHz 8Ω　30
入力感度/インピーダンス：LINE/DVD、CDR/PC、CD、MD(PLAY)、TAPE(PLAY)
150mV/50kΩ
定格出力/インピーダンス：MD(REC)、CDR/PC(REC)、TAPE(REC)
150mV/2.2kΩ
パワーバンド幅：IHF－3dB THD 0.2% 8Ω　10Hz～30kHz
周波数特性：CD→SP OUT 1W出力時　10Hz～50kHz/±3dB
SN比：LINE/DVD、CDR、CD、MD　100dB
(IHF-A、入力ショート)
トーンコントロール：BASS　100Hz　±8dB
TREBLE　10kHz　±8dB
アコースティックプレゼンス：1　82Hz　+4dB
2　20.5Hz　+3dB
82Hz　+3dB
3　20.5Hz　+3dB
82Hz　+6dB
ミューティング：－50dB

■チューナー部

●FM
受信範囲：76.00～108.00MHz（50kHzステップ）
実用感度
　モノラル：11.2dBf、1.0μV（75Ω）
　ステレオ：17.2dBf、2.0μV（75Ω）
キャプチャレシオ：2.0dB
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：90dB
SN比
　モノラル：73dB
　ステレオ：67dB
2信号選択度：50dB
AM抑圧比：50dB
ひずみ率（1kHz）
　モノラル：0.2%
　ステレオ：0.3%
周波数特性：30～15,000Hz、±1.5dB
ステレオセパレーション：45dB（1kHz）30dB（100～10,000Hz）
ミューティングレベル：17.2dBf
アンテナインピーダンス：75Ω
●AM
受信範囲：522～1,629kHz（9kHz ステップ）
実用感度：30μV
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：40dB
SN比：40dB
ひずみ率（400Hz）：0.7%

■一般仕様

クロック精度：月差±30秒（25℃）
使用電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：48W（電気用品安全法技術基準）
待機時電力：9.1W
エナジーセーブ時：7.8W
外形寸法：205（幅）× 91（高さ）× 290（奥行）mm
質量：3.4kg

■リモコン RC-456S

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3型（1.5V）乾電池 2個

※ 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(R-805TX)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では、本機の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： ＿＿＿＿年＿＿月＿＿日

ご購入店名： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Tel.　　　(　　)

メモ：

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口

カスタマーセンター　受付　9:30〜17:30　(土日祝、弊社休日除く)

■カタログのご請求、製品についてのご相談

＊e-mail：customer@onkyo.co.jp　＊FAX：072-831-8124
＊TEL：ナビダイヤル0570-01-8111(全国どこからでも市内料金で通話いただけます)
　　　または072-831-8111(携帯電話、PHSから)へどうぞ。
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修 理 窓 口

修理のご依頼は取扱説明書の「故障？と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330 〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル 1F
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034　埼玉県大宮市土呂町2-29-2　高安ビル 1F
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-32-8040 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

2001年3月現在　お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

F